

中学校 2年 社会科（地理的分野）「身近な地域の調査」

授業のねらい

- 地形図や景観写真、統計資料を的確に読み取る技能を身に付け、地理的事象を多面的・多角的に考察し、わかりやすく表現する。
- 身近な地域の良さ・強みや課題について、他地域との比較を通して主体的に追究する。

I C T 活用の工夫

1 調査

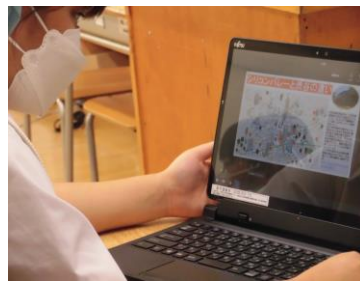
- 文京区について6つのテーマ（自然環境、人口や都市、産業、交通・通信、環境保全、生活・文化）を設定し、各グループで調査、課題や解決策の追究を行った。

【主な活用サイト】

GIS Maps（国土地理院）、e-Stat 政府統計の総合窓口、RESAS 地域経済分析システム、MANDARA 地理情報分析支援システム、文京区ホームページなど

2 発表

- Teams で文京区と渋谷区の中学校を繋いで協働授業を行った。互いの区の発表を聞いて意見交流を行った。
- 6つのグループごとにオンライン会議を開催し、作成したスライドを Teams の画面共有で提示しながら発表した。



←
各グループが、渋谷区立
中学校とオンラインでつながり、自分たちの調べたことを画面共有しながら発表している様子

3 振り返り

- 「文京区の良さ・強み、課題」について、調査前、調査後、協働授業後の3回、Forms で集計した。
- 生徒が入力した内容をテキストマイニング（文字列対象のデータ分析）で分析することで、探究活動による学習の深まり、他地域との比較による変容を把握し、生徒と単元の学習の振り返りを行った。

生徒の様子

- 「他地域の生徒に自分たちの身近な地域を紹介する」という視点で、調査したり、発表資料等を作成したりすることで、統計資料を使った客観的な情報の収集、グラフや地図を使ったわかりやすい表現の工夫が見られた。

成果

- 振り返りでは、「相手校のスライドは構成が工夫されていて理解しやすかった。」、「考察のまとめ方を参考にしたいと思った。」という意見が挙がり、その後の調査・発表活動の質の向上につながった。
- 生徒が、身近な地域の良さ・強み、課題について日常的に意識することは多くない。しかし、他地域の生徒との対話を通して地域の特色を相対的にとらえることができ、地域への肯定的な認識や実態に即した課題の理解など、より深い学びにつながった。（テキストマイニングによる分析）

課題

- 同じテーマで調査を行っても、学校が異なれば結果やまとめ方も異なる。自校と他校の調査結果を比較するため、生徒の情報を読み取る技能や考察する力を育成するための指導方法等を教員間で共有する必要がある。
- 相手校の発表資料を後で見返したり、協働編集によってテキストによる意見交換を行ったりすることで、より深い考察ができるため、今後、異なる自治体間のクラウドの共有ができることを期待したい。